

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-5	高等学校	農業	農業経営	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
7 実教	農業 719	農業経営		

1. 編修の基本方針

教育基本法第二条の各号の目標を達成するため、それぞれ以下の点を基本方針とし、本書を編修した。

教育基本法第二条	方針
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健康やかな身体を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業経営に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得させるようにする。 ・ プロジェクト学習を通して地域の自然や文化、人々と触れ合うことによって、豊かな情操と道徳心を培えるようにする。
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を適宜配置することにより、自主的に学習に取り組めるようにする。 ・ 実践的な学習の手法について丁寧に解説し、実際の活動について主体的に目標・計画を立て実践し、評価できるようにする。
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の生活は、さまざまな立場の人々の協力のもとに成り立っている地域のコミュニティが基盤となっており、自身も主体的に社会に関わっていく必要があることを理解できるようにする。 ・ 実習を通じて、さまざまな人々と交流し、他者を思いやる心を育むことができるよう配慮する。
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去から現在までの人間と自然との関わりについて触れ、自然環境を含めた人間をとりまく環境の重要性について認識できるようにする。 ・ 実習などの実践的な学習を通して、生命や自然を尊ぶ態度を養うことができる内容とする。
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の農業の現状などについて記述し、日々の暮らしについて考えることができる。 ・ さまざまな農業経営のデータなどについて、日本だけでなく海外の事例を取り上げ、国際性を育むことができるようにする。

2. 対照表

● 全体的な特色

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
本文中のゴシック体	・ 学習上で重要な用語についてはゴシック体で強調し、あわせて丁寧な定義や説明を記述することで、幅広い知識と教養が定着するよう配慮した(第1号)。	p. 14, 16, 17 など
目標	・ 各節の初めに目標を設け、これから学ぶ内容を簡潔に示すことで、学習内容に関する興味・関心を喚起し、自ら学ぼうとする態度を養えるよう配慮した(第2号)。	p. 7, 12, 24 など
コラム・参考	・ 本文と関連した、生徒の興味をひくような内容を「コラム」や「参考」として取り上げ、幅広い知識を身につけられるよう配慮した(第1号)。	p. 23, 31, 34 など
調べてみよう 考えてみよう	・ 農業経営について調べることを通じて、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた日本と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう配慮した(第5号)。	p. 10, 29, 45 など
話し合ってみよう やってみよう	・ 話し合いや実習において、互いに協力して作業を行い、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した(第3号)。	p. 61, 174

● 各章における特色

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1章 農業の動向と農業経営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業経営の役割や動向などを記述し、自然環境を含めた人間をとりまく環境の重要性や将来性について認識できるようにする(第4号)。 ・ 農業は、生活する上で欠かせないものであることに触れ、産業としての農業の大切さに改めて気づくことができるよう心がけた(第2号)。 	p. 12-56 p. 40
第2章 農業のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業の経営に関わるさまざまなマネジメントについて丁寧に記述し、それをもとに経営環境に対応した基本的・基礎的な経営戦略を考えることができるようにした(第1号)。 ・ 簿記の基本的なしくみが理解できるように記述し、会計を活用した基本的・基礎的なマネジメントを理解できるようにした(第1号)。 	p. 58-99, 130-136 p. 100-129

<p>第3章 農業のマーケティング</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 供給過剰を取り上げるにより，日本における農業の生産・販売について理解し，今後の農業経営について考えることができるようにした。(第5号)。 • マーケティングに関する基本的・基礎的な知識のほか，さまざまな具体例を示し，幅広い知識と教養を身につけることができるよう配慮した(第1号)。 • ブランド戦略について考えるとともに，身の回りにあるブランドの要素について，図や写真を用いて記述することで興味・関心を持てるようにした(第3号)。 	<p>p. 138-139</p> <p>p. 140-163</p> <p>p. 164-172</p>
<p>第4章 農業経営のマーケティング活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的・基礎的な市場調査，環境調査の方法を理解できるようにした(第1号)。 • 茶業経営の例などをもとにマーケティング活動について記述する(第5号)ことで，それらを参考に生徒が自主的に活動に取り組むことができるようにした(第2号)。 	<p>p. 174-182</p> <p>p. 183-208</p>
<p>第5章 農業経営・マーケティングの実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 主体的に社会の形成に参画できるように，法人などの取り組みの事例を取り上げた(第3号)。 • 高校生による取り組みの事例を取り上げるにより，これらを参考として生徒が自主的に活動に取り組むことができるようにした(第2号)。 	<p>p. 210-213</p> <p>p. 214-217</p>

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-5	高等学校	農業	農業経営	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
7 実教	農業 719	農業経営		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

○全体的な配慮と特色

- (1) 農業経営に関する基礎的・基本的な知識の習得と実習を通して、農業経営に関する興味・関心を喚起できる内容とした。
- (2) 各節の始めに目標を設け、これから学ぶ内容などを簡潔に示し、生徒の興味・関心を喚起するように努めた。
- (3) 生徒が学びやすいよう、イラストを含む図表や写真を豊富に掲載し、また、原則として下段に図表や写真、上段に本文を配置する紙面構成として、視覚的な理解を促すように工夫した。
- (4) 文章はできるだけ短くするなど、簡潔で平易な表現を心がけた。
- (5) 読みにくい用語や地名にはルビをふり、また重要用語はゴシックにするなどして、生徒が読みやすく、理解しやすいようにした。
- (6) カラーページには、本文中では表現できない色を生かした写真や図を多用することで、生徒の興味を引くことができるよう工夫した。

○各章における配慮と特色

(1) 序章「農業経営」を学ぶにあたって

農業経営について平易に解説し、教科書全体の導入となるよう配慮した。

また、農業経営とプロジェクト学習について、具体的な進め方などがわかるように記述した。

(2) 第1章「農業の動向と農業経営」

日本の農業の特徴のみでなく、世界の農業の特徴についても記述した。その際、統計データなどを用いて、具体的でわかりやすい解説を心がけた。また、農業がもつ多面的機能について取り上げ、農業の果たしている社会的な役割についても言及した。さらに、農業と食との関係が密接であることに触れ、安全・安心な食品の提供や消費者ニーズに沿った農業の大切さを扱うほか、農業政策が農業経営の設計や管理を決定する上で重要な情報であることを示し、それが国際的枠組みの中で規制されていることが理解できるよう解説することで、これ以降の学習への基礎となるようにした。

(3) 第2章「農業のマネジメント」

マネジメントについて、農業経営の成果に大きく影響を与える外部環境や内部環境をもとに平易に解説した。また、農業経営を担う主体の変化や、担い手の継承の仕組み、経営主体の違いによって経営目標である利益概念が異なることについて、平易に解説した。さらに、農業経営における集团的取り組みの意義、法人形態を含めた経営の運営にあたって必要な経営者の職能や規模拡大等の戦略について、具体的な数値をもとにわか

りやすく解説した。

また、簿記の基本原理を理解できるように、簿記の意味・目的、資産・負債・純資産、収益・費用などを体系的に取り上げ、最後に決算でまとめた。また、財務諸表について概要を把握できるように財務諸表分析や原価計算、損益分岐図表を取り上げた。

(4)第3章「農業のマーケティング」

農業の生産要素の利用に関わる特徴などを強調し、他産業との違いを明らかにした。

また、ニーズに沿った農業経営に必要なマーケティング活動について、市場調査やSTP分析などのマーケティング戦略をもとにわかりやすく解説した。さらに、卸売市場のあり方やその他の多様なマーケティング活動の具体事例を示し、身近なものとして理解できるよう平易に解説した。また、ブランド化の役割を理解し、農産物のブランド化の農業経営における有用性について考えさせるように解説した。

(5)第4章「農業経営のマーケティング活動」

市場調査および環境分析について、1節では図を用いて平易に解説し、2節では生徒が実践できるように茶業経営などの具体的な事例をもとにまとめた。

PDCA マネジメントサイクルの計画Pにあたる経営設計について、その目的・手順・手法を具体例をもとに分かりやすく解説した。現実の農業経営の診断と設計を行うにあたり、基礎的な知識を生徒が身につけられるよう、診断指標は基礎的なものに限定した。また、抽象的になりすぎないように、現実の簡略化した数値を用いて解説した。

(6)第5章「農業経営・マーケティングの実践」

第1～5章で学んだことを活かし、生徒が課題を発見し、農業経営の改善に自主的に取り組めるよう、具体的な事例を挙げて解説した。

法人などの実践例では 事業の概要・見いだせる学び を解説し、学校の実践例では農業経営のプロジェクト学習について、目的・計画と実践・成果と課題について取り上げ、プロジェクトの参考となるように解説した。

付録

経営改善のためのチェックリストを掲載し、より実習に取り組みやすくなるように配慮した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
序章 「農業経営」を学ぶにあたって 「農業経営」を学ぶにあたって 農業経営とプロジェクト学習	(1) ア, イ	p. 6-10	1
第1章 農業の動向と農業経営 1 日本と世界の農業 2 農業経営の動向 3 食料消費の動向と社会経済環境 4 食料・農業・農村政策と関係法規	(2) ア, イ, ウ, エ	p. 11-56	40
第2章 農業のマネジメント 1 農業マネジメント 2 生産のマネジメント 3 組織のマネジメント 4 会計によるマネジメント 5 リスクのマネジメント	(3) ア, イ, ウ, エ	p. 57-136	50
第3章 農業のマーケティング 1 農業マーケティングの概要 2 農業のマーケティング戦略 3 農産物のブランド化	(4) ア, イ, ウ	p. 137-172	23
第4章 農業経営のマーケティング活動 1 市場調査と環境分析 2 市場調査・環境分析の進め方 3 農業経営の設計と診断	(5) ア, イ, ウ	p. 173-208	23
第5章 農業経営・マーケティングの実践	(6)	p. 209-217	3
		計	140